平成15年1月1日　第1347号　発行：湯沢町役場総務課

広報 ゆざわ

湯沢町町民憲章

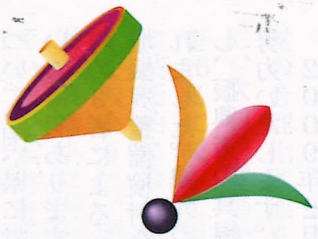
わたしたちのねがい

美しい自然につつまれた雪のまち湯沢
清らかな愛情あふれるまち
すこやかな活力みなぎるまち
さわやかな誰もが訪れたいまち
みんなで力をあわせ
豊かで明るく住みよい
文化の香り高いまちをつくりましょう

あけまして おめでとうございます

新春を迎え
皆様のご多幸を
お祈り申し上げます

平成十五年元旦



ひと昔前まで、子どもたちにとって双六遊びはお正月の定番でした。雑誌の付録の双六で遊んだ記憶のある人も少なくないでしょう。

双六の原型は升目を描いた盤上に駒を進めて勝ち負けを競うゲームで、古くから世界各地に見られます。日本は奈良時代に中国から伝えられたといわれ、「日本書紀」にも「雙六（すごろく、すぐろく）」という盤上遊戯具の名が見られます。

区画に絵を描いた紙の上で、さいころを振って駒を進める絵双六は、古代の雙六が変形、あるいは分岐したもので、その起源は16世紀後半の文書に現れる「浄土双六」と考えられています。浄土双六の初期のものは、仏教の世界で人間が住むとされる南閻浮州（なんえんぶしゅう）を振り出しに、上へ行けば極楽、下は地獄という構図で区画に記されていたのは文字のみでした。

華やかな絵が描かれていた双六が広く出回るようになったのは江戸時代中期。芝居や役者を題材にしたもの、百人一首からテーマをとったものなど。

その後も時勢を絵に写しながら、双六は庶民に親しまれてきましたが、最近では、遊びの世界から急速に姿を消してしまいました。しかし、双六は年齢を問わず遊べるゲームです。このお正月、双六をもう一度復活させて、家族で楽しんでみてはいかがですか。

新年のごあいさつ

湯沢町長　村山　隆征



明けましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃より、町民の皆様から町政各般にわたり、格別なご支援、ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

期待した新世紀の幕開けも引き続き、国内経済はデフレ状態にあって、景気は一向に回復の兆しが見られず厳しい状況にあります。

経済の活力を取り戻すために、政府は全力で抜本的な総合経済対策を進めて、今年こそ日本経済にとって大きな変わり目の年になるよう、念願するものであります。

長引く経済不況により個人消費の落ち込みで、観光を基盤産業とするわが町にとって、観光旅行客の減少、特にスキー客の減少は、憂慮いたします。幸い湯沢町は豊かな自然や温泉、スキー、交通条件等の環境立地に恵まれています。

新たな魅力創りと、受入体制に町民と知恵を出し合って活力ある町づくりに向けて努力してまいりたいと思います。

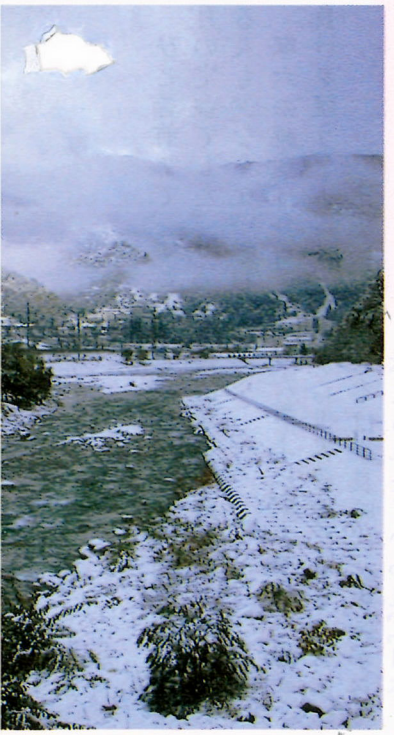
湯沢町は、どの町とも合併せず、小さくてもよい特色のある独自の新しい町づくりの道を選択いたしました。

地域が自立した社会を目指し、地域づくりに自ら参加していく住民・企業・行政が一体となって共存しあえる町づくりに取り組んでいくことが重要であると考えています。町民のご協力をお願い申し上げます。

少子高齢化社会が進展する中にあって安心して暮らし、生きがいある生活を送ることができるよう、昨年8月、湯沢町保健医療センター（町立湯沢病院）を開設いたしました。町が（社）地域医療振興協会と信頼のもとに管理運営を委託いたしました。地域医療に積極的に取り組んでおります。

保健医療センターを核として、保健・福祉・介護の一体化を図り、町民の健康増進と安心な医療の提供充実に取り組んでまいりたいと思います。

良好な住まいづくりを目指し、定住の促進を図るため、上中子地内に宅地造成工事を進めて来ました。本年10月頃から一部分譲（20～25区画）いたします。



清津川ダム実施計画調査が、昨年7月29日に中止となりました。誠に残念でありますが、国が総合的な観点に立ち判断されたものと受け止め、今後の対応策を進めていく所存であります。ダム問題で36年間の長きにわたり、地元三俣地区の皆様の心労は計り知れないものがあります。ダム問題で遅れた三俣地区の振興策について、国、県に対し要望している所であります。幸い国、県、町の3者による「三俣地区地域振興整備検討会」が組織されました。地元の意向を考慮し、振興策の具現化に向けて努力いたします。

２００９年2月開催が予定されている第64回国民体育大会冬季大会スキー競技会の主会場が湯沢町に内定いたしました。昨年10月に、１３０人からなる冬季スキー国体湯沢町準備委員会が設置され、地元受け入れ準備が正式にスタートしました。この機会に湯沢町を大いに発信し、これまでにない大規模の大会でありますので、町民一丸となり、大会の成功に向けて、今からご協力をお願いするものであります。

不況の長期化により、地方財政は、一段と厳しい現状にあります。多くの行政課題が山積みしていますが、行政改革や意識改革を積極的に進め、行財政の効率化に努め、行政サービスの向上に取り組んでまいる所存であります。

政治、経済、社会あるいは教育、福祉等あらゆる面で多事多難な時代にありますが、共存共生する住み良い町づくりに、町民皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

明るい希望に満ちた年になりますよう、ご祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

年頭のごあいさつ

湯沢町議会議長　山本　邦悦



新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、日韓共同開催のサッカーワールドカップが開催され日本は初の決勝トーナメント進出を果たしベスト16、一方の韓国はベスト4という素晴らしい成績を収め、両国民ともに沸き返り、世界初の共催大会は大成功のうちに幕を閉じました。また、首相は、戦後57年間にわたる不正常な関係を打開するため朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を訪問し、拉致被害者5名の帰国を実現させました。現在は、まだ残る被害者の帰国を求め、交渉が難航していますが、国を挙げてこの早期実現と国交正常化を望むものであります。

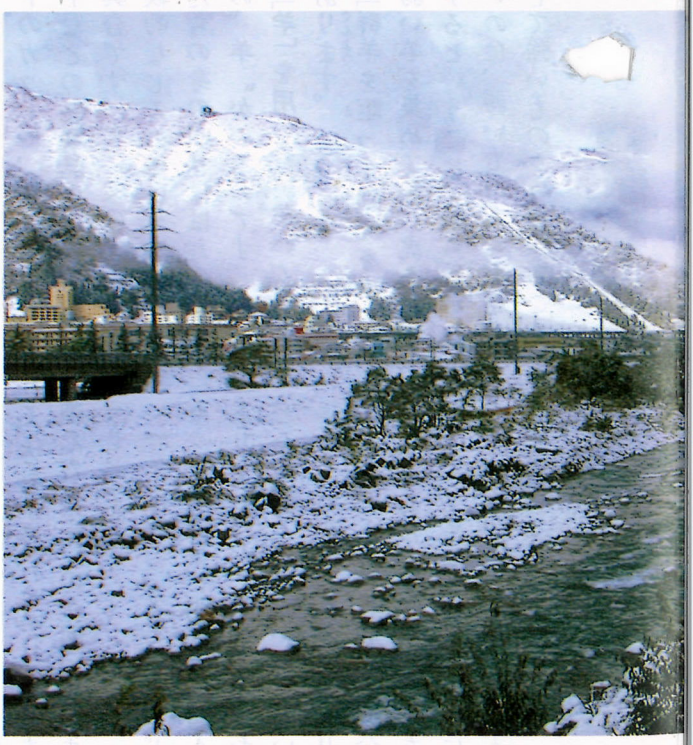
国際平和の観点から2，001年アフガニスタンにおける戦いがほぼ終結を見たのもつかの間、次はバリ島での爆破事件、そしてイラクのフセイン政権による大量破壊兵器開発疑惑と、国際社会においては相変わらずテロをめぐる攻防が続いています。

世界61億人の誰しもが、何よりも求めているのが平和でありますす。しかし、この地球上から戦火が止むことがありません。この悲劇が根絶されるまで、私どもは世界平和実現のための活動を継続していかなければなりません。

一方、日本の経済情勢をみれば、低迷は一層深刻化しており、政府は新年度予算において、税制改革はもとより、高速道路をはじめとする建設事業・年金・交付税・職員給与等あらゆる項目について、徹底した削減を検討中であります。

町におきましても国同様、町税の減少が確実であること及び合併については、独自の町づくりを推進するとの意思決定を行ったことから、今後の厳しい町政運営に備えるべく、事業・組織・人件費等の合理化・削除等について更なる検討を行っています。

そして議会といたしましても自らの姿勢を正すべく、議員倫理に関する内部検討を行い、議会の活性化及び議会運営の合理化に取り組むとともに、次回の選挙から議員定数を16名に減らすなど組織改革に積極的に取り組んでいます。



このように、国及び地方行財政が縮小に向かい混沌としているなかではありますが、町にとっては念願の湯沢町保健医療センターが開設いたしました。健康増進施設を備えた90床の病院であり、県内の公立病院としては、初めての免震構造を取り入れた施設として注目を集めています。今後は、「町民の病院」として、また、名実ともに「医療・保健・福祉」の中核として、（社）地域医療振興協会のスタッフとともに、私どもの財産として守り・育んでいかなければなりません。

最後になりますが、現在、湯沢町は清津川ダム建設の中止に伴う三俣地区整備計画の推進及び国の諮問機関である地方制度調査会での小規模市町村の「強制合併、権限の縮小」検討の撤廃を求めるなど、問題が山積しておりますが、皆様方の意見を十分聞かせていただきながら、湯沢町議会としての今後の方向を決定して行きたいと思います。

これからも皆様の力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、議会を代表し、新春のごあいさつといたします。

●町民新春年賀交歓会●

みなさんでともに新年をお祝いしましょう。
お誘い合わせのうえ、お気軽においでください。

【日時】
1月16日（木）午後6時～
（午後5時30分より受付）

【会場】
湯沢カルチャーセンターアリーナ
（立食パーティ形式）

【会費】
お一人様4，000円（当日ご持参ください。）

【申込】
（財）湯沢町都市施設公社　℡784－1511
（準備の都合上、1月10日（金）までにお申し込みください。）

【主催】
湯沢町商工会・湯沢町観光協会・（財）湯沢町都市施設公社



今年は未年（ひつじどし）



羊が家畜化されたのは今から8，000年以上も昔といわれています。馬が家畜化されたのが5，000年前ですから、羊と人間との付き合いはかなり長いことになります。

西暦599年、推古天皇の時代に、百済から二頭の羊が贈られたと、日本書紀に記されています。しかし、羊は乾燥した風土が好きなので、湿気の多い日本の気候には合わなかったのでしょう、あまり繁殖しながったようです。近代になって政府は、消費が増加した羊毛の国内自給を図るために、緬羊（羊の別称）の飼育を奨励しました。ここでも、気候などの影響による試行錯誤はありましたが、次第に頭数も増え続け、多いときには全国で100万頭近くが飼育されていました。現在では、北海道などを中心に、11，000頭あまりとなっています。

羊には、「おとなしい」「群れになる」などのイメージがありますが、何よりも私たちが実感できるのは、ウールのセーターなどの〝羊製品〟です。羊からは、衣・食・住に関する様々なものが作られています。羊毛は衣類や寝具に、毛脂は石鹸や化粧品に、肉は様々な肉料理に、皮はバックや敷物に、腸はテニスラケットのガットに、乳はヨーグルトなどの乳製品に、といった具合です。十二支の中では比較的なじみの薄い羊でも、私たちの身の回りにはたくさんの〝羊〟がいるのです。

「羊」を用いた諺がいくつかあります。

「群羊を駆って猛虎を攻む」
弱い羊を集めて強い虎を攻撃するということ。勝ち目がないのに、弱いものたちが連合して強いものを攻撃することのたとえ。

「羊頭狗肉」は、羊の頭を店先につるし、実は狗（犬）の肉を売ること。見せかけは立派でも、中身がそれに伴わないことをいいます。

「千羊の皮は一狐の腋に如かず」は、安い羊の毛皮を千枚そろえたところで（たくさんの凡人がいても）、狐の脇から取れる高価なひとつまみの毛（一人の賢者）には及ばないという意味です。

羊は他の動物と並べられたり、比べられたりすることが多いようです。

悩みを抱え、困っている人は「迷える子羊」にたとえられます。「多岐亡羊」は、わかれ道が多いために、逃げた羊を見失ってしまうといった意味で、方針が多いために、どれを選んだらよいのか困ってしまうことです。

昨年はサッカーワールドカップ開催など明るい話題もありましたが、長引く不況など全体的には暗い、厳しいニュースが続いた年でもありました。今年は、各個人が自分を見失わないよう、目標をしっかり見定め、その実現に向かって頑張っていきたいものです。